（大正十四年四月二十日第三種郵便物認可）

十九日　夕刊

磐城毎日新聞

□本紙一ヶ月　金六十錢　□郵税　金十五錢
□一部　賣　金三錢
□廣告料一行　金六十錢　□掲載　金九十錢
□場所指定一行　金一圓增
□電話（平）七八六番　□振替口座東京一〇八五五
□編輯局平市田町二六番地
發行兼印刷人　磐城毎日新聞社　森合英

悠長過ぎる市當局

はの字

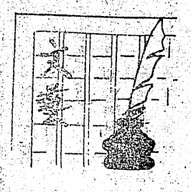
兎角人間は土壇場に惱まねば決心を澁る憾みが多い、先き頃平市に强制されてゐる種痘の如きも其の弊にもれず天然痘が出來たと云ふので足下から鳥が飛び出した樣な狼狽を演じたものだ、思慮も分別もあるものに斯んな事があつてはならないのだが斯うしたのが人間なのかも知れない。

慌てゝもやつて貰かうと氣がついたのは先づ結構である。事實天然痘の豫防として今のところは種痘以上に安全なものはないと云ふ雪崩れを打つ希望者に市當局がまた周章のなかに二萬人かの痘苗を傳研に理研に追加注文した、これに對して流石は傳研である急の急なるを知つて十二日夕平靜で送つて呉れてゐる、ところが落着いたのは市當局である。

十三日は日曜であるから十四日に一齊施行と云ふことに決めたものだ、醫師のなかには其の夜のうちにもと思へるものゝ此のいう長さに驚きが過ぎてあきれたものさへある。批言は一言にして盡きる奪ひ去られる病魔の惡戯を見逃がしてはなるまい、今回の臨時種痘施行に於て市民の狼狽よりも一刻をも置けぬ火急を解さぬ市當局の緩漫をとがめたく思ふからう、波高き太平洋も心配事には相違ないが内に存することに關心を欠いてはならぬ、

病魔は人の豫防に抵抗力を高めて其の隙に窺ひ乘ぜんとするに寧日がない。人の健康は世の文明と列んで進んではゐない、弱きものゝ徒存の上に健康者を那事變は未だ收まらず歐洲の戰禍も鎭まる迄には短かい前途ではな

關仰井風



同より信仰の個人的体驗をいふ點からいへば宗門性などあり得べくもないが本來宗教と傳統とは不可分のものである（石光中）

磐城の郷土研究回顧

岩手縣　山口彌一郎

四、磐城民俗研究會創立

此の際柳田先生より「磐城民俗研究會は最初傳說を研究されたが之だけでは大きな仕事ではない」と言はれたその言葉を最も强く感じたのは私であつたらう。私の民俗學には日が淺い爲、自重して廻り遠い採集技術は練磨より始め、その資材として傳說を使用したとも言ひ得るのである。然し此の仕事も「石城の水の傳說」『石城の石の傳說』『磐城地方の樹に關する傳說』『續石城の傳說』『石城の年中行事』等と題し石城民俗研究會の名で磐城高等女學校の校友會誌やその他に發表し、拔刷を作つて中央にも出し、廣く頒布した。其の間高木氏も上京されて在京諸氏と民俗研究の動向を論ぜられ、和田文夫君も上京、廣く諸先輩の門を叩いたので我々は漸次中央との連絡も充分とれ、次に進むべき磐城の眞の生活探究の鄉土研究へとひたむきに進んだのである。此の間の基礎時代には特に涙ぐましきものがあつた、私の財とて特にある理でなく研究費は全く自持で御氣の毒に堪へなかつた。ここに磐城の鄉土愛と整理がなされてゐたのであつたらう。

五、東北の旅

昭和十年には檜枝岐の出作聚落調査後、八ノ戸の家屋密度、店舗密度計測、岩手田山の出稼聚落等を踏査したそれより毎年東北へ旅する事が夏冬と全休暇續いた、先づ宮城縣牡鹿半島南端より青森縣東北端ト北半島尻屋崎に至るまでの津波に依る聚落移動調査、次はうらへ廻り、津輕半島の北端龍飛崎より南男鹿半島に至る漁村調査續いて內陸に入り岩手縣下閉伊郡小國村、安家村の調査、秋田縣森吉山麓のマタギ聚落の調査、その間福島縣には濱通りの干拓調査信達を中心とする舊市場の調査、双葉郡川內村の山村調査、會津地方の山村及び聚落人に調査等今振り返つて身体がよく耐へ得たと思ふ程の苦勞の多い足の旅を試みた。これには東北服部報公會及び仙台齊藤報恩會の補助があり、田中館先生の御指導によるもので、旅の都度、書齋に持ち運ばれる資料も漸次增加し、此等の概報は地理學評論、帝國農會報、社會政策時報、地學雜誌、地理學等の諸雜誌へ發表、約四十數篇に達してゐる。これは私のひたむきな修業道であつた。この諸篇は總べて平市の茅屋に於ける書齋にて綴り、田中館先生の校閲を受け、內若干は東京帝大及び東北帝大に於ける日本地理學會にて講演してゐる、かくして此の東北の旅が私の磐城を觀る眼を新鮮にし、鄉土研究に對する方向に影響せしめたのは惡い結果ではなかつたと思ふ

俳句

渡邊何鳴選

春雷　（平）　追風

春の蠅白き障子の日にあそぶ
春の朝けむりのごとく雨降れり
畦塗るや春雷にかゝはらず

春の山路　水戸部光雅

春山路手を上げ友と別れけり
友を呼ぶ聲こだましつゝ春の山
こゝかしこ鶯鳴けり春の山
二ッ箭はうすむらさきに朝霞
花の灯に友の島田のなまめける

當季雜詠（平市）　黑井春美

草に寢て蕚の花に觸れてみる
早春の丘に誘れる二人かな
爪彈きの三味の音きこゆ春の宵

（平）　永塚安三

花の山人去りつくし靜かなる
道芝に二人の影や春の月

異說赤穗浪士（176）

桃川若燕　口演
城本喬　畫

本多家の情眼にも留まらぬ堀部兵衛の早業に逃げ出す暇もなくギヤツと云ふと這ひ出した男、見ると太股の邊りを突かれたらしい。安兵衛は襟髮を摑むと

『コレ卑怯な眞似を致すな』

と云ひつゝ宙に吊るし上げ、

『上野介の在所を云へつ。云はねとあれば此の一刀で寸斷致すぞ。エヽ云はぬか……』

と一刀取り直して再び太股に突つ込んだから痛さに堪へ兼ねたか

『アッ申し上げます〳〵御主人の寢所は向ふの座敷で……』

『ウム然うか。しかし其方を生かし置いたところで何人かに討たるぞ。それよりも堀部安兵衛武庸の一刀の錆と消えろ』

云ふかと思ふとパッと摑んだ手を離したと同時に横に拂つて一刀物の美事に胴斬りにされて打ち倒れる。血振ひしつゝ安兵衛武庸は少しも早く吉良の首を揚げようと敎へられた座敷を差して進んで行く。然るところ、吉良邸の隣家の本多孫太郎の邸では、

『吉良の邸へ大勢浪士野殿當屋敷へでも逃げ込んで參りましたるそのときは、追ひ返してお遣はし遊ばすが當然と心得ます。これこそ誠の武士道でござる』

これを聞くと孫太郎殿も愚鈍ではない。

『ウム、勘太夫の申す事道理である。然らば早速その手配を致せ……』

と仰せられる。其處で眞柄勘太夫は直に家來の人々にその用意をさせた。

吉良が何んで隣家の本多家からも見放されたかと云ふに、これには仔細がある。

元祿十四年五月二十一日に吉良家へ屋敷替への通知が下つたので見附內から本所の松坂町に引越して來たそのとき、握り家の吉良家が隣家の本多家に對して挨拶もしないばかりか、高塀を廻らした上本多家の庭先へ汚水の流れるやうな家を設計したから用人の眞柄勘太夫としても面白くない。何時か折があつたらこの敵討をしようと思ふところへ今度の夜襲だから、してやつたりと眞柄勘太夫、殿の仰せを幸ひに早速諸方を固めさせ自分も高いところへ昇つて塀越しに一味の人々の働きを見てゐる。

すると吉良邸內各所に赫々としてゐた火燭が次第々々に薄暗くなつて行く。然もまだ吉良上野介の首を取つた樣子が見えない。

其處で勘太夫はこの箱の蠟燭を取りよせ、これを塀越しに吉良の邸內に投げ入れ、

『誠忠無二の方々に心ばかりのお與みを致す』

と大聲に呼ばはつたこの聲を聞いた大石は

『何を投げ込んだものであらう』

と手にとつて見ると思ひもよらぬ五箱の蠟燭、辱なしと禮を述べ、これを消えかゝつてゐたところへ繼いで廻つたので吉良の邸內は再び元の如くに明るくなり、一黨の面々も勇躍して奧座敷目がけて進み入り、吉良上野介を探し始める。

東京玩具界指導者玩具デザイナー
阿部治良氏傑作
ハートある
人形と動物の展覽會
自十七日至廿六日　即賣致します
平市大黑屋
女店員募集　大才より委細面談

耳鼻科　咽喉科　平市紺屋町　電六五一
醫學博士　增田醫院　增岡之

産科、婦人科　井坂醫院　平市田町　電五五九
〔見習看護婦入用〕

內科　小兒科　物療科　波醫院　院長　菅波淺
⊙入院隨時⊙　四倉町本町（電六三）

特許　久壽竈（クスカマド）
二升炊　三升炊　四升炊　六圓　六圓五十錢　八圓
主婦之友社生活館推奬
資源愛護　燃料經濟　廢物利用
鐵の代用品で鐵よりズット性能が優れてゐる薪代が鐵製の半分で濟む木屑でも落葉でも御飯が炊けて毎日の燃料費が五錢も六錢も得をしておいしい御飯が炊ける
コヽハ吸氣口ト焚口ヲ兼ネテ此處カラハ決シテ煙モ炎モ出ル事ガアリマセン
コノ火室內デ火炎ガグルグルト幾回モ回轉シテ熱ヲ貯溜全密閉故溫度ヲ冷サレナイ
平市一丁目　武田陶器店　電話二二九番

愈々運動のシーズン來る
スポーツ……ハイキングに！
聖戰下の……體位向上を！
靴と運動具の　大塚へ
平市田町銀座通り　電話七七番
野球、庭球、陸上競技、球技、卓球、体操用具
ハイキング用具　ヂャンパーとズボン　ワイシャツ（各種運動服裝類）
〔公定格價〕

醫院開業
內科　小兒科　專門
醫學士　石坂銓
平市六丁目五丁目交番脇　石坂醫院
午前宅診　午後往診

春のヤマカのお知せ
チャック付——勤勞シャツ
若い人の——ワイシャツ
本絹の——ネクタイ
國產の——中折帽
澤山取揃へました
平・二丁目　ヤマカ　TEL 605

フタバ磁氣療院
平市中町（公會堂通り）
フタバ印刷所內
電話一九三番

工員募集
一、求人者　福島縣石城郡小名濱町　日本水素工業株式會社小名濱工場、
二、應募資格及人員　年令十五才以上の男子　一〇〇名
右優遇採用す
三、寄宿舍其ノ他福利施設完備
四、申込方法　履歷書一通提出ノコト
五、申込場所　平市田町　平國民職業指導所

純毛類の純ドライクリーニングは誰が何んと言つても絶對
他店の追隨を許さぬ
ベンヂン純ドライクリーニング機械と優秀なる蒸氣仕上機械使用
白榮舍ランドリー
クリーニング用の高級原料は豐富に準備してあります
他店でお氣に召さぬ時は是非一度御試し下さい
正直な仕事と優秀なる技術をお望みの方は
設備を誇る平市田町の白榮舍ランドリー
平市地區洗染同業組合員

シボレー　フォード　八ボールト型　蓄電池
在庫品豐富
修繕は特に勉强
營業科目　蓄電池、高壓發電機、自動車、船舶電機一般、充電機、礦山用エンジン、發電機
古川・ジエス・ナショナル・蓄電池代理店
東工業株式會社定置式木炭瓦斯發生機代理店
平市紺屋町　久野電機
電話七二一番　振替東京一五一〇四番

度量衡　モノサシ・升・秤
計量器　温度計・寒暖計・器・体
ハカリの取緒垂糸を修繕致します
吸入用酸素純度99%
關內藥局　平四丁目　電話四〇番

防空暗幕
天幕・シート　防水マント　カーテン敷物、防水加工　販賣　製作
●設計と施工●
敷島屋商店　平市六丁目六　電呼四八三番

大小の御宴會にホール
御家族の御同伴に御座敷
いつも材料を吟味して居ります
平市四丁目　マルトモ食堂（電話一二三番）

疑似發生 地方民は又も慄然

但し・檢診の結果解消

一時地方民を慄然たらしめた三坂村の天然痘も、眞症五名で喰ひ止め終熄したものと見られ、郡市民をホットさせてゐた矢先、又亦疑似者が現はれ痘禍擴大の危險信號に地方民を再び狼狽せしめたが、今十九日縣衛生課の中曾根技師急行檢診の結果、何れも疑ひを解消した

◇

天然痘の發源地三坂村では引續き警戒中の處三、四日前から同村大字下三坂字仲居農草野元吉孫同村國民學校初等科一年生繁勇さん（八）が發疹、小野新町の佐久間醫師が天然痘の疑ひあるものと診斷同人は眞症と決定した石川文藏さんの子供と同級の關係上重大視して縣衛生課の來診を求めて萬全を期し、中曾根技師が急行して檢診の結果單なる水疱痘と決定、同村の不安も解消された

◇

平市鎌田町五十嵐金治さんの四女とし子さん（八）は植田町大字金畑曳地精次さん方に同居中發疹、平細菌檢査所長皆川技師が檢診したが大事を執り『疑ひあるもの』として縣衛生課へ報告今十九日午後一時中曾根技師は三坂の檢診を終へて植田町に向ひ檢診の結果、とし子さんも同樣疑ひを解かれた

小名、玉川合併に

郡出身の縣議調停に乘出す

圓滿な解決に奔走

小名濱町と玉川村の合併問題は一部の反對運動が障碍と成つて停頓し、これに對し縣當局は一部の反對に拘泥せず近く諮問案を發して有無を云はさず合併を解決せんとする空氣濃厚である爲、斯くては自治体の將來に禍根を遺すことを憂慮、小野氏を除く郡出身の縣會議員間に善處する打合せを進めてゐたが、去る十七日赤津、坂本、關内の三縣議（蓮沼、草野兩氏事故欠席）玉川村へ出向

合併反對派と見られる齊藤、橋本兩村議初め區長有力者十名と會見『私達は自治体の圓滿な發達を望み、老婆心までに全然白紙で臨んだものである』と先づ會見の趣旨を述べ、座談的に各々の反對意見を聽取し、縣議側からも縣當局の方針や玉川村將來のため意見を述べて散會した

兩者の會見は精神的に相當効果を齎らした模樣で縣議側は當日に於ける反對者側の意見を尊重、縣當局及小名濱側とも折衝し飽まで兩者の調停に立つて圓滿な進行を圖ることに成るらしく結果を期待されてゐる

遞信記念日

記念式、報國團も結成

平局の諸催し

明廿日第八回遞信記念日を迎へ平郵便局では午前七時三十分同局屋上に川村局長以下全員集合記念式典を擧げ、それより市内行進して縣社子鍬倉神社に至り入營、出征及從軍者の武運長久祈願祭を執行同社前に於て遞信報國團結成式を擧行する、同局の團員は二百三十餘名に上り、今後は組織的に遞信從業員としての使命を果すため邁進する

尙この記念日を最も意義あらしむる目的の下に引續き十時から局員一同參加し『入營、出征、從軍』から歸還した局員を圍む座談會を開き、現在出征、入營從軍中の局員の家族も特に出席を求めて懇談するなど一日を有意義に過すことになつた、當日表彰されるもの次の如し

◇電信遞信監査表彰

延引の臨鐵

今度は許可成るか

（仙台遞信局長賞）△遞信書記補、時山美佐男△同事務員亀岡憲太郎

◇永年勤續者表彰（平郵便局長賞）△通信書記、佐藤竹喜、同吉田勝衛△通信書記補、遠藤ハナ△集配員、吉田松治

小名濱臨港鐵道株式會社で工事中の地方鐵道は小名濱より泉驛に至る路線は既に竣功し鐵道省設計に依るべき常磐本線泉驛との連絡工事は未だに許可とならず、臨鐵當局を惱してゐるが、當初は昨年春頃に開通の豫定であり延て七月、十二月と延引し、果してこの鐵道はどうなるのかと一般に疑惑を持たせるやうになつたが、右に對し臨鐵石川支配人は次の如く確信を以て語る

今度こそは四月中に許可になる確信を得た、連絡工事架線橋

研町隣組

奉公日の作業

公園掃除

平市研町の一組隣組では昨年春十四軒が結び合つて以來北川治兵衛氏の組長で隣保の實を上げてゐるが毎月一日の興亞奉公日には必ず一同の出動で公園の表入口から第一公園安藤公銅像前まで清掃を實行し頃來の櫻花期には臨時の清掃をするなど隱れた奉仕を一般から感謝されてゐる

電話暴騰を抑止し

賣買統制會社結成か

仙台遞信局では電話の賣買價格暴騰を抑止する意圖の下に最近係員を平市に派し、右賣買中間者數名を集め懇談的に同計畫の議を進め統制會社の設立を慫慂した模樣である

平市に於ける電話の動きは一ヶ年七十五六個から八十個で昨年は最高一千三、四百圓最低七、八百圓を以て取引され、諸物價が統制づけられてゐる折柄獨り電話のみが斯の如き現狀にあるを時局柄遺憾としこれを政府の指定する統制會社によつて六大都市同樣適正價格を保持し賣買譲渡、金融等を行はしめ樣とするものである

福島、郡山、若松等の各市にも慫慂するもの〻如くであつて同社が實現すれば賣買價格に差がなくなる關係から勿論値段の競爭が出來ない譯であり賣りに出た電話の數より賣方が多い場合抽籤等の方法で販賣を決定することになるので價格の競爭も無く成る譯で需要者側にとつては大なる福音である

設立には既往の實績者より其の人を選み平市にこれが出來れば漸次

農事組合

十七設置

小名濱町では農事實行組合の必要に迫られ町内會毎に一組合の割合で十七農事實行組合が誕生する事になり信用組合との連絡を圖り時局下の農産品增産に乘出す事になつた

半の今昔

（四）

切賣りされた天主台『三階櫓』

紺屋町　尾形惟親翁家で買收

この明治政府の政策に更に拍車を加へたのはなんと言つても當時老の言ふ天主台の三階櫓は今の平駅の裏手、鍋田三重翁（八〇）の話だ

戊辰の兵火をまぬかれて殘つて居たと眞木先生の孫に當る舊藩士つて居るとは鍋田昌山先生の孫に當る舊藩士

鍋田三重翁（八〇）の話だ

櫓は今の平駅の裏手、豪壯を誇つた天主台と大根畑、なんとまた變つて石垣もだん〳〵と切り賣りされて行つた。

石垣などは澤庵漬の小さいは別として大阪城を見本にして造つたと言ふだけあつて實に立派なものだつた、石垣の造りも表の方は疊二疊敷から三疊敷もある御影の切石だつたとも言ふからその豪壯さがうかゞはれる。

そのお城も三階ヤグラが一番先きにとりこはされて賣られ、やがて石垣もだん〳〵と切り賣りされて行つた。

石垣などは澤庵漬の押石となり、漬石と變る。

〝いくら時代の波とは言へ、かつて仰ぎ見たお城が切り賣りされる〟

の話でそれは紺屋町の尾形さんの家で買ひとつた筈だとの事に紺屋町の尾形惟親翁（八五）を續いて訪問した。

同翁にはその前に吉田君から聞いて一度訪問して居たのでこれが二度目、しかし天主台買とりの話は初めてだ

◎お願ひ【編輯係】

掲載中の『平の今昔』について文面に誤記及至更に詳しい事實を御存知の方はお寄稿願ひます

目標十萬圓

平局の國債賣出し

資材は既に準備が成つて居るので、本月中に許可をとれば六月末迄には竣功開通の運びとなる豫定だこの地方鐵道が開通すれば泉間のバスは半減するから燃料の節約も出來、乘客も緩々と泉小名濱間の往復も出來る事になる

國債、貯蓄債券、報國債券が二十一日から一齊に賣出される！平郵便局の國債割當は現物は既に五萬圓に達してゐるので大して十萬圓るが追加割當もあるので十萬圓を目標に進んでゐる、一方との豫約八萬圓分が到着してゐ

突破は難事でないと同局では語つてゐる、また貯蓄債券は十五圓券二百枚、七圓五十錢券二百五十枚、報國債券五圓券二百枚、十圓券百五十枚である、平市内銀行の債券割當は次の通り

◎常陽銀行△貯蓄債券七圓五十錢券二百枚、十五圓券二百五十枚、△報國債券五圓券二百枚、十圓券百五十枚◎農工銀行△貯蓄債券七圓五十錢券三十枚△報國債券十圓券五十枚、五圓券三十枚◎七十七銀行△貯蓄債券七圓五十錢券、十五圓券各五十枚△報國債券五圓券五十枚、十圓券五十枚

四倉管内警防團檢閲

四倉警察署管内二町四ケ村の警防團聯合檢閲は昨十八日午前八時より磐城セメント工業所グラウンドで擧行した定刻各團の服裝並に機械機具の點檢をなし終つて、優良勤續團員並に無火災團等の表彰式を行ひ次いで管内一千二百余名の分列式を行ひ同十一時半散會した

◇優良團員、△四倉警防團、馬目健、須藤昇、片寄丈夫、長谷川欣一、大橋由藏、村田才之助、渡邊保、田中喜平、遠藤健治、門馬豊、△大野、九名△大浦、八名△草野、九名△久之濱、七名△大久、六名

◇永年勤續團員△四倉、鈴木甚次郎、久保木福之助、長谷川恒次郎、新妻留男、長谷川豐、賀澤義房、横田常三△大野、七名△大浦、七名△草野三名△久之濱、八名△大久十一

◇無火災團四倉警防團昭和十二年より十五年まで四ケ年草野警防團自昭和十三年至十五年まで三ケ年

學務部長昇進の大和田彌一氏

磐中第二十一回出身

十八日づけの地方部長關東廳警務部長を振出しに昭和十四年内地と外地の内務拓務交流人事異動に際し岩手縣地方課長に轉じ、今回高等官三等學務部長として鳥取縣に轉じたものでその將來を囑目されてゐる

部長に榮轉した大和田彌一氏は平市南町大和田醫師の甥に當り磐中第二十一回（大正十年）の卒業、京都帝國大學出身の法學士である、京大在學中に高文合格

學生自治團

月末頃までに結成

交通道德普及

既報、汽車通學生を以て組織する自治團は目下その結成を急いでゐるが遅くも今月末あたりにはその組織が出來上る筈で、平驛では次のやうに語つてゐる

通學生自治團はこちらから學校に呼びかけ作つて貰ふので現在の乘降の際の一列に並ぶ運動なども一般に好く行つて居ると思つてゐる、混雜を緩和するため驛の北側に乘降場を作る必要を認めてその實現を期してゐるからその中に實現出來るものと思つてゐる、是は生徒ばかりでなく一般人の乘降にも利用させることになる、自治團が出來上れば二千人からの汽車通學生が現在よりもつと好く指導されるわけで、結成後は單に平驛ばかりでなく管内全部の自治團の先生方に集まつて貰つて種々の汽車通學生の共通の問題をとりあげて善處することになりませう

體力管理調査

該當者は十七才以上廿才

申告は正直に

平市では十六年度体力檢査被監理者の申告の取纒めのため青年團が主体と成つて近く該當者の調査に乘出すが被監理者は『内地居住の滿十七才以上二十才未滿の帝國臣民』で五月十日までに申告すればよいことに成つてゐるが市では都合で四月三十日までに取纒める計畫である

國民体力法は力檢査に依て國民体力の實相を知りこれに依つて國民体力の向上を圖る上に必要な基礎的資料を提供すると共に檢査後指導その他必要な措置を講じて國民個々の体力向上を圖らうといふもので嘘僞の申告をすると處罰されるから注意を要する

煩刺し加工

生産四百萬圓超過

問題は明年度

小名濱町の特産品鰯煩刺も本月一杯で大体終了を告げるが秋職から今月迄一ケ年の出資金額は約四百萬圓と注されれ昨年度より百萬圓の增加となつた、大体に於て公定價の標準があつた爲め大怪我はなく利率は減退したが業者としては手數料になるから鰯漁業の合同乃至は減獲衝道を辿る今後の方向を氣遣つてゐる現在に於ける鰯煩刺の權威伊藤組合長の如きは自家製品二百車依託品百車一漁期に三百車約百萬圓の商品を市場に送出してゐるのだから豪勢そのものであるが、揚繰船の資材入手難、延ては合同して生産減を氣遣はれてゐるが伊藤加工組合長は製造業者としての立場を語る

國策としては增産を推奨しても業者は資材入手難で漁船を減らすか出漁期間を制限するかと騒いで居り、加工業者の立場からは、魚價は高くとも何とかコナして行ける、又コナして行く方法もある、加工業者の希望は船主は非常時的な工夫と努力で現狀維持を保ち邦家の爲め增産一途に邁進される事を望んでゐる、加工業者分擔の重荷を負ふ事に少しも吝なものではない

駐在所と警防分團

小名で併置改築

小名濱警防團第四區では分團事務所並に第四區巡査駐在所を併置改築する事になり總工費八千四百五十圓で設計を進めてゐるが内一千圓は町補助その他は第四區部落民及び第四區に事務所工場を有す者より寄附を仰ぎ工費に充てる筈だが場所は第二校前海岸幹線道路との交叉點で小名濱町への表玄關口である

郡山に開く籾摺組合

講習出席も決る

縣下籾摺同業組合の大會は來る二十七日午前十一時から郡山市公會堂に於て開催、越えて翌二十八日は動力使用並に米の調製等につき講習會がある筈で石城郡からは左記出席する

▲理事（農檢平支所長）安島八郎、遠藤茂助、猪狩十七郎、小松清三（勿來支部長）佐藤米治（平支部長）吉田多喜雄（四倉支部長）以上

石城販利

臨時總代會

石城販賣利用組合では今十九日午前十一時から平市マルトモ樓上に臨時總代會を開き從來同組合の事業であつた繭市場の經營を石双乾繭組合に全部を譲つた定欵變更と縣南農村工業の名で工場を新設した茹藷粉製造工場關係を新たに定欵に加へる件を附議決定した

難船救助

小名で修理

岩手縣宮古町篠原末吉氏所有貨物船清復丸（二百トン、船長長南盛倉（六三）氏外六名）は宮古港より鑛石を滿載東京に向ふ途中、茨城縣那珂港沖合で機械に故障を生じ航行不能に陥つたが茨城縣指導船常陸丸に發見され十七日午後七時半小名濱港へ曳航された、尙ほ同船は機械の修理を終へたので近く鹽釜に引返す豫定である

市會兩議長

六縣會議に出發

平市會正副議長野崎滿藏氏、蓮沼龍輔氏は二十一、二の兩日青森縣八戸市に開かれる東北六縣、北海道、樺太市會議長會議に出席のため十九日午後十時二十分發の急行で出發する

体力檢定

中等校一部決定

縣下中等學校の國民体力檢定は五月五日男子師範學校を最初として行はれるが現在迄に決定したる本郡の檢定日割は次のやうである

△五月十二日、磐城中學△十三日、植田菊田實業

控訴院長

初巡視に來平

新任日高宮城控訴院長は初巡視のため高野福島地方裁判所長と共に明二十日午後三時來平翌二十一日平區裁判所を視察して郡山に向ふ

大物滿載八紘丸

甘六日三崎入港

小名濱町日水工所有船遠洋漁船八紘丸は南洋漁場に第二回目の出漁中であつたが〻大もの滿船〻の無電があり二十六日頃三崎港に入港の豫定でキワダ、メバチ・クロカワ等約八萬圓水揚げを豫想されてゐる

商況

（十九日）

【野菜】

	高	安
葱	一八	三
人參	三〇	二五
油菜	一四	一〇
蓬蓮草	五五	三〇
筍	一三〇	
水葉	六五	
ウド	八〇	

お馴染みの

菅谷さん婚姻

平郵便局電話交換手監督菅谷ヨシ（四〇）さんは去る十五日良縁あつて結婚する事になつて依願退職したが、十四歳の時から電話交換の事務に携はり、在勤續すること廿六年、通信書記、判任官五級といふ平局では最古參者で現在の電話從業員で菅谷さんの世話にならぬものはなくその退職を惜しまれてゐる

平市慶弔録

【出生】△平市鎌田町二十五番地入江長三郎長女和子さん△平市新川町二十一番地橘内勘七五女千惠子さん

【死亡】△平市白銀町五番地鹽田シナ（三五）さん

天氣豫報

今晩　西の風晴れ

明日　南の風晴れ後だんだん曇ります

（二十日）

滿潮　前〇、〇〇干　前五、一〇　後一〇、四〇　後六、〇五

運勢

日曜　戊戌　友引　破星宿

舊三月廿四日　新四月二十日

▲一白　嚴をも削らんずる波濤の勢を以て努力せよ

▲二黑　緩み心を生ずる時は失策を來たすべし注意

▲三碧　理想のみに氣を取られて力を顧ず失敗あり

▲四綠　浮氣心に着實性を失ひ八分迄の事も破れん

▲五黃　目上の言葉に從ひて人に逆はざるがよろし

▲六白　剛健なる志を以て憶せず自信に向ひ進め吉

▲七赤　諸事順調の展開を來たすべし慾儀開店等吉

▲八白　警備を嚴にして家を守れば家道安全なる日

▲九紫　頓智を以て奇利を博す臨機の處置を取るべし

味付昆布の佃煮製造元
特製 酒坂のほまれ巻
製造元　榮屋佃煮加工部　平市大町
特約店は市内菓子食料店にあり

平營業所開設
今般左記へ平營業所を開設致しました、何卒御後援の程御願ひ致します
仙台市東三番町　河北新報社
一、營業所　平市堂前二〇番地（磐城訓盲院東隣新川端）
主任　坂本忠治

産科、婦人科　根本醫院　平市南町　電話三四番

お知らせ
平郵便局電話交換手監督菅谷ヨシ（四〇）さんは去る十五日良縁あつて結婚する事になつて依願退職したが、十四歳の時から電話交換の事務に携はり、在勤續すること廿六年、通信書記、判任官五級といふ平局では最古參者で現在の電話從業員で菅谷さんの世話にならぬものはなくその退職を惜しまれてゐる

新刊書籍　月刊雜誌　特價圖書販賣店　文堂　村山書店　平市駅前中央通り